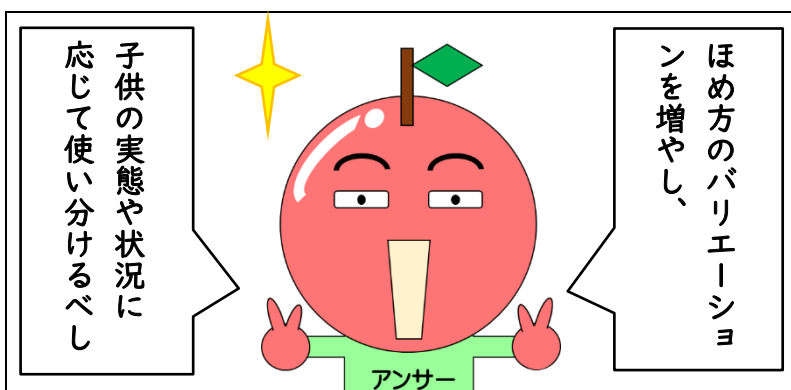
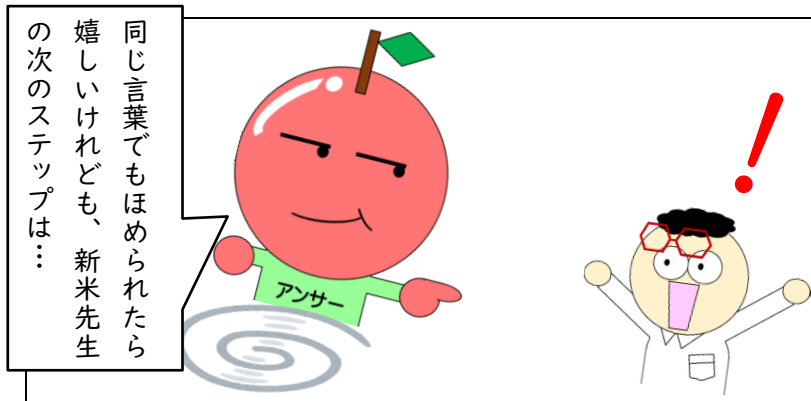
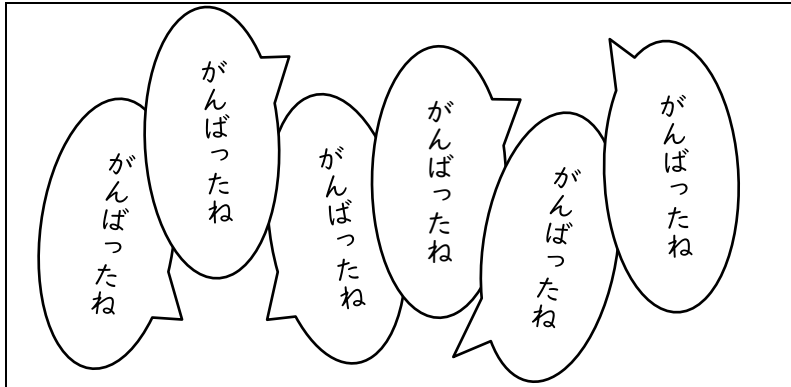


Q21 . 子供をほめることを普段から意識していますが、どうもうまく伝わっていない気がします。



ほめ方のバリエーションを増やし、子供の実態や状況に応じて使い分ける

- ほめ方には、「即時性／具体性／明確性／多様性」の4つのポイントがあります。まずは、子供が分かる方法でほめること（明確性）が重要です。

ほめ方のポイント

- 明確性 … 子供が分かる形ではっきりとほめてみよう！
- 即時性 … よい行動が起こったら、すぐにほめてみよう！
- 具体性 … 適切な（よい）行動の内容を具体的にほめてみよう！
- 多様性 … 様々なバリエーションを付けて、ほめてみよう！



例えば、「がんばったね。」などのほめ言葉が、子供に本当に伝わっているかどうかを疑問に感じることはありませんか？そのようなときは、その子にとって分かりやすい方法でほめること（明確性）が重要です。ほめた後の子供の様子を見て、取り組み方に変化（活動のスピードが上がる、取り組む姿勢が変わる、安心した表情をしているなど）が起きていたら、ほめたことが、「子供に伝わっている」と捉えてもよいでしょう。

- 子供の年齢や特徴、好きなワード、声のトーン、ジェスチャーなどを組み合わせて、ほめ方の様々なバリエーションを使い分けられるようにしておきましょう。

いつも同じ言葉や調子でほめていると、徐々にその効果が薄れてきます。単にほめ言葉のパターンを増やすだけでなく、声のトーンやジェスチャー、表情等を組み合わせることで、ほめ方の様々なバリエーションが生まれます。その他、次のような方法も参考にしてみてください。

- 短い言葉でほめる
 - － いいね、よしっ！、できてる・できてる
- 注目（視覚的）を入れる
 - － 花丸、シール、スタンプなど
- みんなの前でほめる
 - － 教室のごみを拾ってくれました、ありがとう！拍手
- 終わった後に好きな活動を許可する
 - － ***が終わったら、好きな本を読んでいてもいいですよ
- 子供の目を見て、ほほえみながらうなづく
- 子供が分かるサインを出す
 - － OKサイン、いいね！サイン



これらの子供の実態や状況に応じて使い分けることが重要です。

【文献】山本淳一・池田聡子（2007）：できる！をのぼす行動と学習の支援－応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育。日本標準。

よく一緒に読まれているQ

Q19「[子供になかなか指示がとおりません。コツはありますか？」](#)

[目次に戻る](#)